

YMCA NEWS

2

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

■ホームページ
www.kumamoto-ymca.or.jp
■ブログ
kumamoto-ymca.wablog.com
■メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi



●発行所/熊本YMCA/〒860-8739熊本市新町1-3-8 TEL.096-353-6397代
●編集人/神保勝巳 ●発行人/堀 弘雄 2009年2月1日発行(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)



熊本YMCA創立60周年記念 クリスマス特別講演

夜回り先生(水谷修さん) 「いのちを育む」講演会

2008年12月26日(金)、夜回り先生こと水谷修さんをお招きし、崇城大学市民ホール(熊本市市民会館)で講演会が行われました。およそ1200名の来場者が水谷さんの熱のこもったメッセージに耳を傾けました。



子どもたちを 夜の世界から救いたい

私は、17年前から夜に眠ることを許されない人間です。当時の横浜市民が「横浜市立暴力団養成所」と呼んだ定時制高校に勤務し始めて以降のことです。同校は、校内で覚せい剤が売られ、殺人以外の事件なら何でも起こっていました。

18年前までは、私も明るい昼の世界の住人でした。名門進学校に勤務していた私が夜の世界に入ったきっかけは、荒れていた定時制高校の教師だった友人の、「くさっている相手にいい教育はできない」という言葉です。私は「将来、親を泣かせよつ、人を殺そうと思つて生まれてきた赤ちゃんはいない。くさらせたのは大人だ。その子どもを生き返らせるのが教員の仕事だ」と返し、定時制高校勤務を決心したのです。

しかし、生徒たちは教師の話の聞き

く気はなく、学ぶ喜びも知りません。私は、問題を抱えている生徒の居場所に向き、人間関係をつくらなければ何も始まらないと思ひました。暴力行為を繰り返す生徒の居場所は深夜の繁華街。私は毎晩、夜11時から朝まで街を歩き、大人から捨てられ、ポロポロになった子どもたちにも、夜の世界に戻れと話しかけるようになりまし。薬物の売人がいた前にも立ち、薬物を売らせません。それが「夜回り」です。現在も、全国各地の都市で行っています。これまでに救った子どもは一万人以上。彼らは今では私の代わりに夜回りをし、新たに非行に走るうとする子を救おうとしています。17年間、私はいつか大人たちが夜回りに来ると思っていました。しかし、付いてくるのはかつてポロポロだった子どもたち。本当なら昼の世界に戻り、幸せになるべき子どもたちです。夜回りは本来、そんな社会をつくった大人が行うべきことのはずですが。

私は暴走族の集会に乗り込み、全国の暴力団とも対峙し、潰してきました。親指をつぶされ、体に傷もあります。しかし、それで2人の子どもを救えたのですから安いものだと思います。それよりも痛いのは、平和で安全なはずの日本で、100人以上の尊い命を失ったこと。41人が薬物乱用、4人が殺人を犯し、61人が心を病んで、自殺、事故死をしました。それでも私たちは、生き様を見せて愛を伝えなくてはなりません。愛や優しさは言葉で伝えるものではありません。愛とは一組の人間が互いを必要とし、いたわり合い、生き合つて、振り返った時に見えるもの。好きな子どもをそばにいつもいて伝えるものです。

今、子どもたちに近づいている悪魔が薬物です。4人に1人は使用を誘われ、39人に1人は実際に使つて言われています。暴力団は、子どもに薬物を売ること何とも思っていない。様々な手段で子どもに近づ

き、資金源にしようとしています。私には一人の少年を救えなかった経験があります。私の力ではシンナーを止めさせられず、幻覚症状による交通事故で亡くなりました。そして火葬場では、精神だけでなく肉体まで破壊する薬物の恐ろしさを見せつけられました。焼いた骨は崩れ、骨壺に納めることができないのです。自身と、彼にシンナーを教え、た暴走族仲間を責め続けた母親は「シンナーはうちの子を二度殺した」と泣き叫び、私たちは真つ赤に火傷しながら熱い灰を両手で必死にかき集めました。その後、病院で薬物依存症の専門家に話を聞いていた

だいた時、私は先生から「あなたが殺した」と言われました。薬物依存症は病気で、専門病院で専門医師の治療を受けて治るもの。愛の力では治せないのです。依存性の強い薬物の前では愛の力が勝てるわけではないと、私は一人の少年の死で学びました。

人は誰かを幸せにするために 生きていく

ある学校で行った講演後、訪ねてきた少女と出会う。私は愕然としました。まじめそうな姿をした少女が泣きながら私に見せた腕には、無数のリストカットの痕がありました。家の中に引きこもり、苦しみながら

リストカットを繰り返す子どもは、夜回りでは救えないことに気づいたのです。私は彼女に、共に生きる約束をしました。そこでマスコミの力を借りて社会に訴え始め、5年前にメールアドレスと自宅の電話番号を公開。これまでに延べ47万4000の相談にのって来ました。一人の子も死なせないという思いですが、救えなかった子もいます。もつとで

ある日、届いたメールに、「今から自殺するので、最後に先生の声が聞きたい」と書かれていました。慌てて電話をしようと、中学時代にいじめが原因で不登校になって以来、真つ暗な部屋に引きこもつてリストカットを繰り返していると言います。「私は親を苦しめている。死んではいけないの?」と尋ねる彼女に、私は、毎朝6時半に電話をもらう約束をしました。

そのようなやりとりが1カ月ほどあった後、彼女は少しだけ窓の外を見ることができました。近所のおばあちゃんがゴミを出していたそうです。その姿を見ながらの電話が一週間ほど続いたある大雨の日、強風にあおられて倒れたおばあちゃんを助けようと、彼女は6年ぶりに屋外に出ました。以来、おばあちゃんのゴミ出しを手伝い、一緒にお茶を飲むようになったのです。

そして、「先生は、人のために何かをしたら人生が変わると言つたね」と、老人ホームで介助の手伝いを始めました。そこで、周囲を困らせているおばあちゃんのお尻が汚れた時、かわいそうだからと浴場で丁寧に洗つてあげたそうです。ベッドに寝かせようとした時、袖がまくれ、リストカットを続けてきた腕を見られました。するとおばあちゃん

わたしと聖句

イザヤ書第43章18節

初めからのことを思い出すな。昔のことを思いめぐらすな。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
熊本聖書教会
長澤 忠雄

弁解病にかかった時

失敗をすると、私たちは口をそろえて、「もうあの人はだめだ、あなると思つていた」といいます。そして自分まで、「やっぱり、思つていた通りになった」と妙な確信を持ちます。新しく何かをしようとする時に、弁解病にかからないよう、注意する必要があります。それは、第一に健康がすぐれませんが、第二に頭が悪いからで、第三に若いので、もう年ですから、第四に運が悪いので、の四つです。

私のこれまでの経験で、この弁解病に最も良く効く予防注射は、神を見上げることです。具体的には、聖書のことばによる励ましです。

あるラジオ番組で、ある大学の教授が、「人の心は、励ましのことばを聞いて育つものです」と話していました。

失敗と失敗の予測のため弁解病にかかり、前に向かえない時、弁解するのではなく、神のことばである聖書に励まされ、後のものを忘れ、前に向かって進みたいものです。